

## 式 辞

北国からも花の便りが届くようになり、木々も日ごとに青さを増すようになってまいりました。まさに命の躍動を感じる春を迎えましたが、東京農工大学の学部生、大学院生として今日の入学式を迎えられた皆様も新たな人生の春を迎えられました。おめでとうございます。東京農工大学を代表して心から歓迎の意を表します。

本年度の新生は、学部では、農学部が三四六名、工学部は五五七名で合計九〇三名です。大学院は、工学府、農学府、生物システム応用科学府、連合農学研究科、および技術経営研究科の五つで構成されておりますが、それらを合わせますと、博士前期課程六六六名、博士後期課程一四七名です。これら学部、大学院全体を合わせた新生の総計は一七一六名となります。この中にはアジア、アフリカ、南アメリカ、ヨーロッパからの留学生一〇九名が含まれております。東京農工大学の一員となられた一七一六名の皆さん、皆さんの東京農工大学への入学を心より祝福いたします。また、これまで側面から皆さんを支え、この日を待ちわびてこられたご家族の皆様をはじめとした関係各位のお喜びもひとしおと思えます。心よりお祝い申し上げます。

さて、皆さんは本日より東京農工大学の一員として活動を始めるわけですが、これからの東京農工大学での勉学と生活にいかなる心構えで臨むかは、皆さんの将来を決定づけるほどに重要であることをまず認識していただきたいと思えます。大学は教育環境を整え、必要な教育プログラムを提供します。クラブ活動に必要な施設なども整備されておりますし、教室以外での皆様の人格形成や人間的成長を支援する枠組みが用意されております。皆さんの大きな期待にこたえられるだけの条件を備えているものと我々は自負しております。それをどう活かすかは皆さんひとりひとりの主体性に委ねられます。全ての新生の皆さんに有意義な学園生活を送っていただきたいと思えます。そのために、私は皆さんに次の二つのお願いをしたいと思います。

まず一つ目ですが、皆さんが選んだ専門が社会に出てから心強い武器になるように、自らの専門分野で十分な知識と実力を蓄えて下さい。そのためには、皆さんの主体性こそ重要であることを自覚していただきたいと思えます。高等学校までは、一定の範囲内の知識を吸収し、理解できればよかったです。大学・大学院ではこれでよいという範囲はありません。皆さんが学習する過程での主体性次第で領域は大きく広がっていきます。与えられたカリキュラムを受身で履修するのは大学での勉学の態度ではありません。自ら進んで主体的に学ぶ姿勢こそ、大学の学びの基本です。最終年度には皆さんは最先端の領域での研究に取り組むことになります。そこは未知の領域で、もはや案内役はいないと心得るべきです。自ら進んで考え、調べ、失敗を通して学びつつ前進する以外にありません。そこでは苦しみを味わうことがあるかも知れませんが、その道程の先に新しい「知」

が皆さんの手によって生み出されることとなります。これをなしうるのは確かな基礎力と深い専門性を持った創造力あふれる研究者・技術者です。そうなる自分を想像してみてください。素晴らしいことではないでしょうか。そのような自分の姿を今から思い描き、しっかりとした基礎の上に深い専門性をもつ創造力あふれる研究者・技術者を目指して主体的に学んでいただきたいと思います。

次は、グローバル化の時代に相応しい国際的教養人としての素養を在学中に身につけてほしいということです。世はまさにグローバル化の時代です。皆さんが大学卒業後に活躍する場はグローバル化した世界です。種々の歴史、文化、伝統を持つ様々な国の人々との交流が日常的なものになっております。皆さんにはそのような社会で活躍することが期待されます。そこでは、コミュニケーションの手段としての英語の重要性は勿論ですが、歴史も文化も異なる国々の人々と親しく交わるには、広い教養に包まれ、心と心の触れ合いができるようにならなければなりません。皆さんが尊敬している人を思い出してください。その方は単に専門分野で優れているだけでなく、音楽や絵画などの芸術や、スポーツ、あるいは伝統芸能に通じ、歴史や文化への造詣も深いなど、自身の専門とは別の世界を併せ持っている人ではないでしょうか。そして単に博学であるだけでなく、その分野を体得し、それによって新たに創造的な理解力や知識を身につけた状態になっていると思います。その状態こそ教養というわけです。教養を身につけることそれ自身、自らの心を豊かにしてくれるものでもあります。教養は人柄に深みを与え、人との強い絆を結ぶ強力な触媒の役割を果たすものです。一つの仕事を成し遂げるにも、多くの人で構成されるチームが協調して動かなければならず、それにはチーム内の人々の間に強い絆が確立しているかどうかは鍵を握るといってもよいでしょう。皆さんには仲間を惹きつける魅力に富む教養人となって社会をリードしていただきたいと思います。学生時代は、自由に使える時間を豊富に持てる貴重な時期です。潤沢な時間は学生の特権でもあります。これをフルに活用し、教養を深め、グローバル化の時代に相応しい国際的教養人としての自分自身を磨く努力をしてほしいと思います。

以上、皆様が有意義な学園生活を送り、卒業時あるいは修了時に大きく成長することを願って二つのことを皆さんにお願い致しました。皆さんの主体性こそ肝要であり、受身であってはならないことを肝に銘じて欲しいと思います。自らの将来は自らの意思で築いていくものです。大学はそれを正面から、あるいは側面から強力にサポートいたします。

次に大学側の決意とビジョンについてお話ししましょう。

本学はもうすぐ百四十年になるほどの長い歴史と伝統のある大学で、農業と工業を支える学問領域を中心とした科学技術系大学として発展してきました。平成十六年四月に、本学は法人化と同時に大学院での教育と研究に重点を置く大学院機軸大学になり、名実

共に研究大学として生まれ変わりました。大学院中心といっても、学部教育を疎かにするわけではありません。しっかりとした学部教育があってはじめてレベルの高い大学院での教育と研究が成り立つわけです。日本には七百を超える大学があります。その数多い大学の中から選ばれた比較的少数の研究センターの大学とその他の教育センターの大学のいずれかに色分けされる傾向が強まってきております。それは最近の研究が高度化し、グローバル化に合わせて世界を相手に競争できるレベルを求められるようになって来たためです。研究に必要な資金の獲得は厳しい競争となります。本学はこの競争に耐えうる優れた研究実績を持つ教員を多数擁する大学なのです。十分な時間がないので、本学が如何に優れた研究拠点大学であるかを示す客観的データの一部を紹介いたします。

先生方の優れた研究実績によって国や民間企業から獲得する研究費は一般的に外部資金と呼ばれます。どの大学も外部資金の獲得に必死になっておりますので、厳しい競争になります。その決め手は教員の優れた研究実績です。したがって、外部資金が大学全体の収入に占める割合が多いか少ないかがその大学の研究力を測る重要な尺度になります。本学の外部資金が占める割合が全国で何番目か皆さんはご存知でしょうか。実は三番目です。

もう一つの例を紹介しましょう。民間企業が大学と一緒に共同して研究開発を行う共同研究についてです。大学の規模の大小に左右されないように教員一人当たりで換算して比べると、本学の共同研究受け入れ件数および共同研究費ではいずれも並み居る強豪大学をしりめに、全国第一位となっております。

これらのことは本学教員の研究の質の高さがトップクラスにあることを示しております。私は皆さんには優れた研究拠点大学である東京農工大学の一員であることに大きな誇りをもって進んでいただきたいと思っております。

我々は現状に満足はしておりません。先ほども言及いたしましたが、世はまさにグローバル化の時代です。本学では、このグローバル化の時代に相応しいしっかりとした教育と高度な研究を行う世界の研究拠点大学となることを目標にしております。現在、本学は世界の六十八の大学と学術交流協定を結び、人的交流や学術交流を積極的に進めておりますが、さらにそれらを加速・深化させるために、昨年、国際センターを新たに設立しました。それと同時に、アジア、アメリカ、ヨーロッパの7箇所に本学の海外拠点を設置あるいは設置準備中です。これらの拠点を中心に、海外の有力大学や企業との連携を進め、優れた留学生の受け入れと本学の学生の派遣などの交流を積極的に行い、世界に開かれた研究拠点大学へ向けて一層の発展を目指しております。皆さんの成長と共に、母校としてさらに誇れる大学へ向けて、一層の努力をしていく所存です。

以上、これからの皆様の本学における学園生活が実り多いものになることを願い、本学で学ぶにあたっての私の期待と我々が目指している大学像について述べました。今日の希望に満ちた気持ちを忘れず、何事にも自発性と行動力を持ってあたる積極的な学園生活を送って下さい。我々も希望を持って前進いたします。皆さんが明日を担う社会人として大きく成長されることを期待いたしまして、式辞と致します。

平成二十年四月七日

東京農工大学長

小 畑 秀 文